

学校教育総合プランに沿った重点とする取り組みと評価

【逗子市立久木中学校】

学校教育総合プランの柱 ① 授業づくり

2016年(平成28年)度		2017年(平成29年)度	2018年(平成30年)度
学校及び学年等の実態	<ul style="list-style-type: none"> 授業の構成が昔ながらの形態になっている。 生徒の活動を主とした言語活動の取り組みが出来ていない場面が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 講義調の授業が多く、生徒が考えたり、話し合ったりしてその結果を発表するような授業が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 少しずつではあるが言語活動を重視した授業が増えている。 講義の時間が長くなる授業はまだ多く、十分に言語活動を重視した授業展開ができているとはいえない。
目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが通っていて良かったと思える、また、保護者が子どもたちを通して良かったと思える学校を目指す。 魅力ある学校づくりを、授業づくりを通じて目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが通っていて良かったと思える、また、保護者が子どもたちを通して良かったと思える学校を目指す。 魅力ある学校づくりを、授業づくりを通じて目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して学べる学習集団を形成するとともに、「わかる授業」を推進するために、「主体的・対話的で深い学び」の実践を推進する。
取り組み計画	<ul style="list-style-type: none"> 行動プランⅠ－② ③の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 確かな学力をはぐむための指導の充実 授業研究の充実 学習規律の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 確かな学力をはぐむための指導の充実 授業研究の充実 学習規律の確立
実践内容	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究における授業評価や改善活用をすすめる。 授業規律が守れた場合褒める評価をする。 授業規律を習慣化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究組織を利用して、授業構成や生徒主体の授業おこない、教員一人一人のスキルとなるようにする。 学習規律を習慣化させ、褒めて伸ばす活動を繰り返しおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究において、見方・考え方を働かせる指導方法の工夫をする。 「まなびのプラン」を企画・作成し、実践する。 学校グランドデザイン、教科グランドデザインを企画・検討し、完成させる。
評価	B	A	A
評価の根拠	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究を通じて、授業について組み立てや構成などについて再考することができた。 授業規律の中で、褒める評価を継続させていけるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究や 国立教育政策研究所の研究を通じて わかりやすい授業であったり、主体的対話的で深い学びを含んだ授業の実践をはじめ見る教師が増えてきている。 教師の一方的な授業のスタイルと主体的対話的で深い学びを併用するスタイルを模索始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究を担当者を中心に、充実した活動にすることができた。 校内研究を通して、見方・考え方を働かせる指導方法の工夫に取り組み、「わかる授業」を推進し、実践することができた。 「まなびのプラン」を企画・作成して、生徒に提示する取り組みの構想ができている。 学校グランドデザイン、教科グランドデザインを企画・検討し、完成させる取り組みを進めている。 学校防災計画を市の規準に従って作成し、実施することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ぶれない指導と授業力を向上させ、基礎的基本的な内容の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> すべての教員が主体的・対話的で深い学びの授業のスキルを身につけるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒による学び合い」の授業形式に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」が実践できている授業があるが、より実践を増やし、質を高められるようにする。

学校教育総合プランに沿った取り組みと評価

【逗子市立久木中学校】

学校教育総合プランの柱 ② 集団づくり

	2016年(平成28年)度	2017年(平成29年)度	2018年(平成30年)度
学校及び学年等の実態	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力学習状況調査の結果では、自己有用感や自己肯定感が低い生徒が多く在籍している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の主張を聞き入れてくれることに対して要求は高いが、他人の主張を聞いたり、理解することが苦手な生徒が多く在籍している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校内での人間関係などから不登校になっている生徒が多い。 自己肯定感が低く、自信をもって学校生活を送れていない生徒が多く存在している。
目標	<ul style="list-style-type: none"> 集団の一員として他者を認めることのできる子どもたちの育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の育成 豊かな心をはぐくむ教育の推進 課題を持つ生徒への対応の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場に立って考え行動し、人を思いやる心を育成する。 全教職員が連携をとりながら、組織的で積極的な生徒指導と支援を推進する。
取り組み計画	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の育成 問題行動等への対応の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭とも連携をして規則正しい生活リズムをつくる。 多様な生徒の理解を促進させる。 課題を持つ生徒を周りの生徒が理解すること、課題を持つ生徒に対する教員の理解を促進させ、生徒の持つ困り感を少なくしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の育成 豊かな心をはぐくむ教育の推進 問題行動等への対応の推進
実践内容	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導を充実させ、生徒の規範意識や温かい人間関係づくりを高め、全教職員が意図的・組織的に教育活動を進める。 生徒指導担当や教育相談コーディネーターが中心となって、管理職・全職員が連携を取りながら、組織的な指導体制を確立し対応していく。(いじめ対応等) 	<ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活リズムで生活させる。 全教職員が意図的・組織的に教育活動を進める。 生徒指導担当や教育相談コーディネーターが中心となって、管理職・全職員が連携を取りながら、組織的な指導体制を確立し対応していく。(いじめ対応等) 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導・生徒支援を充実させ、生徒の困り感を受け止め、学年を中心とした全職員による支援・指導体制を実施していく。 特別活動の実践の中で、人間関係スキルの向上を目指した集団づくりや人間関係ワークに取り組む。 道徳の授業、人権同和教育、福祉教育などの実践の中で、相手の立場になり、人を思いやる心を育てることができるような題材や内容を扱う。 総合的な学習の実践の中で、体験活動や発表活動に関わって、集団の中で人に関わったり、協力して行動できるようにする。
評価	A	A	A
評価の根拠	<ul style="list-style-type: none"> 毎日、生徒指導の連絡を欠かさず実施することができた。 生徒の規範意識や温かい人間関係づくりを短学活で高めることができた。 全教職員が意図的・組織的に教育活動を進める。 生徒指導担当や教育相談コーディネーターが中心となって、管理職・全職員が連携を取りながら、組織的な指導体制を確立し対応していくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の打ち合わせで、生徒指導の連絡を欠かさず実施することができた。 全体への指導と個別に対応しなければならない生徒との切り分けを実施して、個への対応をおこなうことができた。 全教職員が意図的・組織的に教育活動を進める。 生徒指導担当や教育相談コーディネーターが中心となって、管理職・全職員が連携を取りながら、組織的な指導体制を確立し対応していくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導担当や教育相談CDが中心となって、管理職・全職員が連携をとりながら、組織的な支援・指導体制を確立して対応していくことができた。 学年・学校の行事や委員会などの集団活動において、集団の中で個人や集団に貢献する個人として、成長している生徒の姿が見られた。 道徳、人権同和教育、福祉教育、総合的な学習の時間などの活動について、生徒の振り返りの中に、人間どうしの関わりについて、生徒の前向きな心の変容を看取ることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> このプランの年度を超えた継続性を担保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度が変わっても継続的に実施していくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援・指導体制は継続しつつ、生徒の実態に即して対応することができる職員体制を模索していく。 集団の活動において、生徒が、前向きで積極的に取り組むが故に、生徒同士の衝突や意見の相違が生じることが起こる。このことに対して、教員がよりよい働きかけと支援が行えるように、さらに考えていかなければならない。

学校教育総合プランに沿った取り組みと評価

【逗子市立久木中学校】

学校教育総合プランの柱 ③ 学校組織づくり

	2016年(平成28年)度	2017年(平成29年)度	2018年(平成30年)度
学校及び学年等の実態	<ul style="list-style-type: none"> 校内組織を使って支援教育や研修研究の充実、安全安心に向けた取り組みをさらに徹底する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校内に潜む 安全ではない場所がある。 教員の多忙感解消のために業務の標準化を推進させる。 校務支援システムの利用をさらにすすめていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌の標準化を導入したことで、以前との違いに戸惑いながら進めている場面がある。 校務支援システムを積極的に活用し、事務処理での業務の軽減につながりつつある。
目標	<ul style="list-style-type: none"> 支援を必要としている子どもたち一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切に対応する。 生徒が生涯にわたって、健康で安全な生活を送るための資質や能力を育てることは学校教育の重要な目標である。 一人ひとりの教職員が、より一層専門性を高め、その力を最大限に発揮しながら学校の組織力を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全ではない場所を解消する。 業務の標準化により小さい組織で動けるようにする。 校務支援システムを利用することにより担当者の負担を軽減する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内支援体制のもと、生徒一人ひとりに適切な支援を推進する。 学校、保護者、地域との連携により、地域全体で見守る体制づくりを推進する。 校内研究の充実に努め、「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けた研究を推進する。
取り組み計画	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の正しい見立てに基づき、一人ひとりの生徒の状況に応じた支援方法、指導法、指導体制の研究を進める。 実際の場面を想定した避難訓練や津波訓練、不審者対応訓練等を計画的に実施する。 業務の標準化を行って、ICT 機器の活用ができれば大きく業務の改善につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月実施する安全点検の結果から危険箇所の洗い出しをする。 標準化された組織図を本校で動きやすい形に再度見直しをする。 校務支援システム上に従前使っていた様式や書式を出来るだけ移行させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援教育の推進 学校安全の推進 研修事業の充実 地域との連携の推進
実践内容	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解に対する教員の研修会の実施 学校安全計画の策定と内容の充実を図るとともに、学校の防災・防犯マニュアルの職員への周知徹底を図る。 研修・研究会・担当者会等の情報を報告し資料の共有化を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月実施する安全点検の結果から危険箇所の洗い出しをする。 危険度の大きい順にする。 標準化された組織図を本校で動きやすい形に再度見直しをする。 今年度業務をしながら改善点を見つける。 校務支援システム上に従前使っていた様式や書式を出来るだけ移行させる。 様式を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を早期共有し、問題へ迅速に対応する。 教員と生徒、生徒同士との相互理解を深める。 不登校生徒へ段階的なアプローチに取り組む。 支援委員会で、生徒一人ひとりについて情報交換し、対応について検討する。 学校防災計画に基づいて、計画的に避難訓練等を行い、その都度、反省点を確認する。 校務分掌の組織図を、本校にあった形で再度見直しをする。 校内研究に関わって、「まなびのプラン」など、新たな学習計画を指導計画と絡めて提案する。 事業内容を整理し、連携が円滑に行われるようにする。
評価	A	A	A
評価の根拠	<p>4月に生徒理解に対する教員の研修会の実施できた。学校安全計画の策定と内容の充実を図るとともに、学校の防災・防犯マニュアルの職員への周知徹底を図ることができた研修・研究会・担当者会等の情報を報告会を実施し資料を共有フォルダーに納めることが出来た。</p>	<p>安全点検の定期的な実施により 安心安全に至っていない箇所を発見し、修繕を重ねることができた。校務支援システムにより各種帳票を校内で統一することができ、担当者の負担を軽減することができている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 支援委員会での話し合いの内容を活用して、生徒指導面で役立てることができた。 毎日の朝打合せや様々な会議の場で、職員間での生徒支援・指導の情報共有を実施することができた。 不登校未然防止対策について、各学年が、魅力的な学校づくりについて話し合い、授業を中心に実践できた。 校務分掌の標準化によって、変更した点を見直すことができた。 地域防災・地域清掃等、地域と中学生とが連携できる事業に積極的に取り組んだ。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 実践内容が停滞したり後退したりしないように現状を維持する 	<ul style="list-style-type: none"> 校内で統一したものを市内で統一できるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究の取り組みにおいて、新たな学習指導計画の形式を提案したので、来年度、それをさらに実践していく必要がある。 地域とのよりよい連携がとれるように事業内容を考えていく。

学校教育総合プラン実施計画・評価一覧 2016(H28)～2018(H30)

【逗子市立久木中学校】

3 C の 柱	項 目	行 動 プ ラ ン	3年間を見据えた取り組み内容 (できるだけ具体的な内容で記載する)	成果	重点	成果	重点	成果	重点	項目別	項目別	項目別	柱別	柱別	柱別
	実施計画の重点等			2016	目標	2017	目標	2018	目標	2016	2017	2018	2016	2017	2018
I 授 業 U V S	1 授業力の向上	① 「確かな学力」を育むための指導の充実	生徒が安心して学べる学習集団を形成する。	B	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	73%	80%	80%	73%	78%	78%
		② 授業研究の充実	校内研究における授業評価や改善活用をすすめる。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>						
		③ 学習規律の確立	授業規律が守れた場合褒める評価をする。授業規律を習慣化させる。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>						
	2 多様な教育活動の充実	① 読書活動の推進	学習情報センターとして図書館の機能を高める。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	73%	78%	78%			
		② 防災・減災教育の推進	学校防災計画と市の防災マニュアルの連携の実施	B	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>						
		③ 食育と体力づくり・健康教育の推進	外部講師を招いて健康教育の充実を図る	A	<input type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>						
		④ 情報教育の推進	情報教育全体計画に基づいた情報教育の推進をおこなう	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>						
		⑤ 福祉教育の推進	発達段階に応じ、体験的な内容を含んで推進する。	B	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>						
		⑥ 環境教育の推進	指導計画に基づき、地域との連携をしながら推進する。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>						
		⑦ キャリア教育の推進	自分の将来を見据えたキャリアについて考えさせる指導をする。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>						
II 集 団 U V S	1 認め合う集団づくりをめざして	① 基本的な生活習慣の育成	学校家庭地域との連携をおこなって意識の醸成を図る	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	75%	75%	80%	75%	75%	80%
		② 豊かな心を育む教育の推進	発達段階に応じて指導内容を工夫し、道徳性が高まるようにする。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	B	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>						
③ 体験活動の推進		学校内だけではなく、ボランティア意識を高め、参加に結びつくようにする。	A	<input type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>							
④ 問題行動等への対応の推進		組織として問題行動に対する措置をとれるようにする。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>							
III 学 校 組 織 U V S	1 支援教育の推進	① 支援教育の推進	校内支援体制を確立させ、一人一人の状況に応じた方法 指導を継続する。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	80%	80%	80%	78%	75%	78%
		2 安全・安心に向けた取り組み	① 学校安全の推進	避難訓練や不審者対応訓練など実際の場面を想定しながらの訓練を実施する。	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A						
	3 研修・研究の推進	① 研修事業の充実	研修で得た内容を共有する方法を模索する。	A	<input type="checkbox"/>	B	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	80%	75%	80%			
		② 教育に関する業務の標準化に向けた取り組み	学校のリソースを最大限利用しながら標準化をはかる。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>						
		③ 信頼に基づいた指導の推進	一人一人の教員の確かな力量や熱意を教育に生かすようにする。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>						
		④ 教育の情報化の推進	校務をできるだけ情報化し、その活用能力を上昇させる。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>						
	4 開かれた学校づくり	① 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	小学校との情報共有と個別支援体制の構築を図る	A	<input checked="" type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	70%	70%	70%			
		② 地域との連携の推進	学校支援地域本部での学校行事や地域行事への積極的な関与が出来るようにする。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	B	<input checked="" type="checkbox"/>						

％は、Sを5、Aを4、Bを3、Cを2とし、項目数×5で割った数値

評価基準 S・・・想定以上の顕著な成果が見られ、行動プランが達成された(100%～90%程度) A・・・想定していた成果が見られ、行動プランが達成された(90%～70%程度)
 B・・・課題はあるが一定の成果が見られ、行動プランが概ね達成された(70%～30%程度) C・・・成果が見られず、または一定の成果が見られたが、行動プランは達成されなかった(30%～0%程度)